

## 昔々のお話

校長 山田浩之

少し前のことです。それでも、その担任協議会の催し物に参加していた時、ある方から話しかけられました。

「校長先生が小学校一年生の時の担任の先生と時々お会いすることがあるの。その方は、校長先生が一年生だった時のことによくお話するのよ。」

落ち着きのない子どもだったので、「手に負えなかつた」というようなお話をしているのではと思い、少し恥ずかしくなりました。同時に、当時の担任の先生のことが懐かしくなり、私から、お手紙を差し上げました。しばらくすると、当時の担任の先生から、お返事が届きました。そのお手紙は、次のように書き始められていきました。

「前略 貴重なお便り有難う御座居ました。嬉々として拝読。齡九十四才の老々者で『物忘れ』の多い最近ですが、南万代小時代、新一年生担任としての緊張感は、よく覚えてます。」

これを読んだときは何とも温かい思いが湧き上がつてきました。

もう、半世紀以上前の話ですので、私は、当時の記憶が、ほとんど残つていません。入学して初めての遠足が雨でがつかりしたこと。冬の朝は、その日の当番が、二人で寒さに震えながら、石炭ストーブの燃料である石炭を校舎の裏に積んである石炭の山からバケツに積んで教室に運ぶ役目だったこと。そして担任の先生には、「鉄腕アトム」の主題歌を教室の足踏みオルガンで弾いてほしいと何度もせがんだ

ことくらいです。それでも、その担任の先生の姿や顔は、今でも、はつきりと覚えています。

そのお手紙のやり取りをしていた頃、新聞で中越のある市議会議員選挙の記事を斜めに読んでいたら、当選者の名前が並んでいる記事に、ふと引っかかるものを感じました。気になつた辺りに目を止めてみたところ、懐かしい名前がありました。私が、一年生を担任した時の児童の名前でした。年数を数えてみたら年齢も合うので、その児童に間違いないと思いました。

私は、後にも先にも一年生を担任したのは、その一回限りでしたので、彼らとの思い出は、忘れ難いものがあります。例えば、一年生の子どもたちと作った手作りの文集は、今でも大切にとつておいてあります。いわゆる“わら半紙”という紙に、印刷したものでは紙質が良くないので、今では赤茶色に変色し、触るとすぐにでも破れてしまいそうです。そんなものでも、私にとつては、宝物の一つです。

願わくは、今年の新潟小学校の一年生も、三〇年後、五〇年後に、担任の先生のこと、新潟小学校のことを懐かしく思い出してほしいと思います。